

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2020年11月 NO.218



[もくじ]

- 2～3 ふと、気がつくと劇場にいた…細川貴司
- 4～5 高知からみた「さんふらわあ」…小松健一郎
- 6～7 モンゴル、そしてホーミーとの出会い…岡林立哉
- 8～9 コロナ禍の今、演劇鑑賞会は…浦田 里
- 10～11 里親制度を知っていますか…公文須雅
- 12 「アンテナ」歌って走ってキャラバンバン出場話…下尾 仁
- 13 高知市文化振興事業団9月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

ふと、気がつくと劇場にいた

TCアルプ 細川 貴司

はりまや橋で空港に向かうバスを待ちながら電車通りをながめていると、不思議な気分になることがある。二十年前、僕はここからバスに乗り東京の大学へ向かった。今、僕がここから向かうのは、いつだってどこかの街の劇場だ。

僕は、長野県松本市のまつもと市民芸術館を拠点に活動するTCアルプという劇団で、俳優として活動している。同窓会に行くと、なんで俳優？と聞かれる。んー、なんでだろうね。たしかに高知にいたときは演劇とは無縁の若者だった。職業として俳優を最初に意識したのは、姉妹都市フレズノ（アメリカ・カリフォルニア州）との交換留学生を選抜する面接のとき。将来の夢を聞かれとつさに思い浮かんだ英語で言える職業が、アクターとジャーナリストだった。もちろん間髪いれずジャーナリス

トと答えた。中学生でもわかる。俳優はダメだ。でも今の僕の職業は俳優。そう、ダメな方。

劇場にはじめて行ったのはいつだったろう。幼い頃に母と行った劇場のかすかな記憶は今も残っている。義経千本桜にひとひら落ちる前幕の紙の雪、高座から落語を聞くと頭がよくなるとおだてる嘶家の仕草。自分の意思で最初に入った劇場は大学の江古田キャンパス、全共闘の面影残る中講堂。そこで僕は演劇の魔法にかかった。悪魔に出会ったのだ。悪魔の名は串田和美。俳優で演出家、そしてTCアルプ主宰。そう、幸せな事に僕は今、悪魔と一緒に芝居を作っている。はりまや橋から旅に出て二十年。たくさんのかげがえのない瞬間と死にたくさんほど落ち込んだいくつもの夜を越えて、僕は今日もふと、気がつくと劇場

にいる。これはそんな僕の忘れられない、いくつかの劇場のお話。

劇場と聞くとどんな場所を想像するだろう？立派なエントランスを抜け、重い二重扉を開くと広い客席、舞台には大きな緞帳。うん、そのイメージはまあ正しい。僕らが拠点とする、まつもと市民芸術館も最大客席数千八百席の主ホールを備える立派な劇場だ。でも、劇場ってそれだけじゃない。まつもと市民芸術館の大人気演目「空中キャバレー」に串田さんはこんな文章を寄せている。「劇場なんてのはこつちとそつちの気合い次第。どんなところだって、あつという間に劇場になるんですよ」。

ルーマニアのシビウという街の噂を聞いたことがあるだろうか？首都でもないその街で、世界中から観客が集まる演劇祭が毎年開催

されている。僕らが公演したのは映画館を改修した国立ラドウス・タシナ劇場。高知の人に分かりやすく伝えると、あたご劇場くらいの大きさ。そこが国立劇場。常駐の劇団によって年間を通してほぼ毎晩違う演目が上演され、芝居が生活の一部となっている。決して裕福とは言えない東欧の豊かな劇場。

夏の夕暮れ、松本の街のど真ん中の工事現場に突如現れた屋根のない仮設劇場。それがシビウからの凱旋公演の会場、フライング・シアター空中劇場だ。開演前から屋台が並び、焼き鳥の匂いに鼻をくすぐられながらビールを片手に席につけば、移ろう空の色や山へ帰る鳥の群れも芝居の一部。いつのまにか辺りが暗くなると、舞台



の壁に役者の影が揺れている。それはどこかの国の広場に迷いこんだような特別な演劇体験。

今、いいなあって思った？でもこの劇場には弱点があるのよ、ほら、屋根がないから。

本番の真つ最中、空中劇場はゲリラ豪雨に襲われた。雨の気配を感じた観客たちはあらかじめ配られた雨カップを素早く着込む、でも役者はそうはいかない。ロココ調の衣装は雨を吸ってあつという間に重くなり、舞台上でも雨音で相手役の台詞は全く聞こえない。てことは客席にはなんにも聞こえない。ちやいない。たまらず舞台に飛び出したスタッフが「一旦止めまし



よう」と進言する。「どうする？やめるか？」と、ずぶ濡れの串田さんが観客に問いかけると「いいから続けろ！」と客席から拍手が上がった。あの日の観客は「俺、あの雨の日いたんだ」とちよつと誇らしげに話しかけてくれる。まるで共犯者のように。

松本の演劇を週末だけの特別なイベントから生活の一部にしたい。そんな想いでTCアルプが十日間のロングラン公演を企画したのは二〇一七年。劇場になりそうな場所を探し歩き、昔ながらの商店街にフリースペースを見つけた。演出家も劇作家もない僕らが創

作のヒントにしたのはあの雨の日の滑稽な経験。そうして生まれた「土砂降りボードビル」は松本の街に育ててもらった僕らの分岐点と言える作品となった。初日の観客はたった十三人、だが評判を聞き付けたお客さんが日に日に増えて、終わってみると大入り満員。何より嬉しかったのはご近所さんに商店街が久しぶりに活気づいたと喜んでもらえたこと。芝居も街の力になれる。そう実感できた公演だった。そして僕は街やご近所さんを想像しながら今も芝居を作っている。ある時は、お寺や味噌蔵、酒蔵に寒天倉庫をそつちとこつちの気合いで劇場に変えながら。

今年の正月、はりまや橋でバスを待っているとき、ふと、高知で芝居をしてみようと思った。いつものように町を歩いて劇場になりそうな場所を探すつもりでいたら、旅の途中で知り合った仲間たちが手をかしてくれ、幸運にも高知の演劇人たちの思いのつまった素敵な劇場に出会うことができた。劇場は南金田のミニシアター「蛸蔵」。場所や建物はもちろん、みんなが何となく知っているのがとてもいい。高知で友人に聞いた

ら三人いれば一人は知っていて、もう一人は気になっていたら答え、残りの一人はへーと興味深そうに話を聞く。きつと足を運ぶきつかけを探している人がたくさんいるに違いない。この劇場をお借りして十二月にささやかな発表会をすることにした。こうしてまたひとつ僕の忘れられない劇場が増える。そしてもちろん、皆さんにとつても忘れられない劇場になるよう、面白い芝居を作ろうと思います。是非、足を運んでみてください。あなたと劇場でお会いできる事を楽しみにしています。

ほそかわ たかし

一九八一年 高知市生まれ。俳優。日本大学芸術学部演劇学科を卒業後、まつもと市民芸術館芸術監督串田和美の呼び掛けに応じ二〇〇七年より長野県松本市に拠点を移し、TCアルプの旗揚げに参加。串田和美、白井晃、山本清多、森新太郎、小川絵梨子等の演出作品を創造、発表。本年十一月、高知市内に滞在、十一月中旬に演劇ワークショップを開催。十二月四日〜六日に一人芝居『セツアンの善人』をシアター蛸蔵にて上演予定。問い合わせ先:

takashixtakogura@gmail.com

高知からみた「さんふらわあ」

小松 健一郎

大阪商船は、一八八四年（明治十七年）創業で当初から十八本線（注）の一つとして大阪―高知―須崎線を開設していました。大阪・高知間の航路は、そのあと土佐商船などに引き継がれ、戦後関西汽船へとつながります。一九七〇年代から全国的にカーフェリーの時代になっていきます。大阪と高知を結ぶ大阪高知フェリーと土佐特急フェリーが一九七二年（昭和四十七年）に合併した大阪高知特急フェリーや、宿毛―佐伯の宿毛観光汽船、甲浦―神戸のちに大阪の室戸汽船と、全国的に見ても「フェリー王国」の高知でした。

日本高速フェリーが、フェリーの代名詞である「さんふらわあ」を一九七二年二月一日、名古屋―高知―鹿児島に、翌年高知―那智勝浦―東京に就航したときの「万

トンを超えるフェリーのインパクトは、当時としては画期的なものでテレビドラマや推理小説の舞台にもなりました。また名古屋―高知―鹿児島を結ぶ航路は物流から考えても、今までにない発想でした。鹿児島県は、この会社のオーナー社長の出身地であり、のちに鹿児島―大阪航路には日本のフェリー史上一番豪華であっただろう

「さんふらわあ11」も就航しました。高知駅前からはりまや橋に移った高知支店には、全長二メートルぐらゐの大きな模型がガラス越しに展示されていて存在感は充分でした。日本で初めての一万トンを超える長距離フェリー、豪華を誇る船内には、レストラン（レストランシアターと言っていました）はもちろんのこと、バー、グリル、ラウンジやサウナ室、それに当時

は非常に珍しいプールまで備えた客船でした。高知港に入港してくるときは、それまで経験したこともなく、接岸時の船体を見上げたものです。

日本高速フェリーの「さんふらわあ」は全部で五隻ありました。名前は「さんふらわあ」「さんふらわあ2」「同5」「同8」「同11」と付けられました。はじめは、全部の船に「さんふらわあ」の名前を付けるはずではなかったのです。第二船の進水式時の船名は「さんらいず」となっていました。その時の記念絵葉書があります。たぶんそのあと「さん」のついた「さんしやいん」とか「さんだーばー」とかを考えていたのだと思われます。あまりにも「さんふらわあ」の名前が有名になり浸透したので、急きよ番号を付けて踏襲し

ていったのです。当時としてもこのネーミングは、「丸」を付けず、地名でも会社名でもない名前が斬新に映りました。この時代から「ひらがな」表記の船名が主流になってきました。

もう一つ注目されたのは、おおきな太陽のマークを入れた船体で大きなインパクトを与えました。それまでの船には大きな絵を描くなどという発想はなかったため船名とマークが相まって知名度は大幅に上がっていきます。そのあとフェリーにも影響を与え船腹に絵を描く船が出てきました。室戸汽船の赤い鯨もその一つです。それに加えて「さんふらわあ」の唄」



進水記念絵葉書表紙



浦戸大橋から撮った「さんふらわあ」 福富廉氏撮影

本煙突が横に並ぶどちらかというと凡庸な船体でした。当時の完成予想図がそれを物語っていますし、大きな模型もありました。

横道にそれますが、その模型は琴平の海洋博物館にありましたが、しばらくして見なくなり、気になっていたところ、友人からの情報で香川県の旧粟島海員学校の校舎内に移ったことが分かりました。しかし瀬戸内芸術祭があった際に、再びそれがどこかに持ち去られました。役所に問い合わせたところ幸いにも廃棄されることなく保管されているそうです。

が有名になりました。船名を繰り返す柔らかな歌声は、今でもネット上で聞くことが出来ます。

また当初の計画と大きく違ったものは、特徴ある一本煙突のスマートな船型です。船を造った川崎重工神戸造船所は、それまで客船とはあまり縁のなかったところでした。そこが注目される船型の客船を造ったのですから愛好家は驚きました。しかしこの船体も船名と同様始めから計画されたものではありませんでした。計画時は、二

巨船「さんふらわあ」が浦戸湾に入ってくるのは、心配の種でもありました。例えば浦戸大橋をくぐったあと御豊瀬をほぼ直角に曲がるなど今までのスケールでは考えられず港湾の改修に神経を使いました。ある年の台風時には造船所で建造中の貨物船が漂流したことがありましたが、その直後ニュースに流れたのは「さんふらわあ」が流されたというものでした。

日本高速フェリーはその後解散し、五隻はそれぞれの会社へ転じ、煙突のマークを替えますが、船体の太陽のマークはそのままにしています。後を引き継いだ会社の一つブルーハイウェイラインは、一九九七年（平成九年）高知・那智勝浦〜東京間に新造船「さんふらわあ くるしお」を就航させます。この船も先の五隻ほどではないにしろ注目を浴びますが、ほどなく二〇〇二年（平成十四年）には、韓国のパンスターフェリーに



完成予想図

売られます。「パンスター・ドリーム」と名前を変え、大阪と釜山を一泊で結ぶフェリーになっていきます。高知に来ていた「さんふらわあ」の中で現在生きているのは、この船だけです。日本高速フェリーの活躍は短かったですが、「さんふらわあ」という名前は残り、カーフェリーさんふらわあと思われるほどになっています。

私は、『消えた航跡』というシリーズで本を上梓していますが、高知関係の船の中でこの「さんふらわあ」は、まだまとめていません。今の計画では四冊目の『消えた航跡4』で私なりにさんふらわあの内容を明らかにしたいと思っています。以前からすでに章の名前だけは考えています。「高知からみた『さんふらわあ』」です。

（注）大阪商船は、西日本の多数の内航海運会社をまとめて出来た会社で関西から四国、九州への航路をつくりました。現在の大手海運会社、商船三井の源流です。

こまつ けんいちろう
一九五四年 高知市生まれ。
日本海事史学会会員

モンゴル、そしてホーミーとの出会い

岡林 立哉

モンゴル。遙か大陸の真ん中、

どこまでも広がる大草原で移動式の住居ゲルに住み、家畜を放牧し、馬に乗って草原を疾走する遊牧民が住んでいる国。僕はいつの頃からかこの国に憧れて、実際にその大地に立ち、彼らの暮らしを見てみたいと思うようになっていた。

大学を中退し、バイトでお金をためながらモンゴルへ行く計画をたてていた頃、モンゴルについて調べているうちに僕は一枚のCD『モンゴルの響き・ホーミーとオルティンドー』に出会う。人間の声とは思えないホーミーの音色に興味を持ち、自分でも真似してみただけ全然できない。モンゴルへ行ったら実際にこの耳で聴いてやるう、というのがいつのまにか旅の大きな目的の一つになっていっ

た。

一九九八年六月十日、僕は初めてモンゴルに降り立った。入国審査を終えて、空港の入り口に群がり客引きをしているタクシートの運転手たちをかき分けて外に出る。輝くような青空、そして草原が目

に飛び込んでくる。ひんやりとした乾いた空気には車のエンジンオイルの臭いが混ざっている。ウランバートルへ行くバスが走る幹線道路まで、道ではなく草原を歩きながら、まさに草原の国に着いたんだ、と実感したのを覚えている。数日後に早くも生でホーミーを

聴ける機会が転がり込んできた。泊まっていた宿のオーナーがコンサートを開催するというのだ。ウランバートルから車で四〇五時間ほど郊外へ出た、なんにもない草

原の真ん中のゲルで開かれたその小さなコンサートで、僕は生まれて初めて生でホーミーを聴いた。

初めて聴くホーミー、CDからイメージしていた音とはまったく異なる響きで、目の前の男が歌っているはずなのに、高い笛のような音はその人からではなく、どこか別の所から聴こえてくる。そして高音と低音の二つの音だけではなく、無数の音の振動が空間を満たして、どこから聴こえてくるのか、何が鳴っているのか分からな

い、そんな不思議な、強烈な響きだった。

当時、僕は自分で歌をつくってギターやピアノで弾き語りをしていたんだけど、言葉やメロディーで人に伝えることに限界も感じていた。ホーミーはそんな僕に、言

葉やメロディーでなく音の響きそのもので人はこんなに感動するんだ、ということを教えてくれた。

僕はどうしてもその音を手に入れたくなり、ウランバートルへ戻るとすぐに先生を探してもらい、馬頭琴とホーミーを習い始めた。

もうひとつのモンゴルの音楽との出会い。

「モンゴルではどれくらいの人

がホーミーや馬頭琴ができるの？」とよく聞かれる。実はそんなに多くの人ができるわけではなく、日本というならお琴や三味線が弾ける、それくらい珍しいものなのだ。そのホーミー、元々は、モンゴル西部のアルタイ山脈周辺で英雄叙事詩の歌い手によって歌い継がれてきた歌唱法で、今のようにモンゴル全体に広まったのは二十世紀半ばを過ぎてからのごく最近のことだという。

初めてモンゴルへ行った翌年、僕は再びモンゴルを訪れてホーミーの故郷への旅に出た。ウランバートルからモンゴル西部の中心の町ホブドまでは国内線の飛行機も飛んでいるけれど、一番安く行けるバスを使うことにした。バスと

四列シートに改造したもので、ここに総勢二十名近い乗客と荷物を無理やり押し込んだの過酷な旅。しかも出発して一時間も走ると舗装道路が尽きて草原の凸凹道に。揺れる度に両隣の肉付きのいいモンゴル人に押し潰されそうになる。身を縮めて我慢していたけど、身を任せてしまえばむしろクツションのように快適だと気づき、ずいぶん楽になる。その頃には乗客同士もすっかり打ち解けて、誰からともなく歌合戦のように歌が始まった。

音楽をかけてそれに合わせて歌うのでもなく、歌詞カードも見ずにおのおのが好きな歌を歌っている。言葉はわからないけど、たぶん、この曲は知ってる？とか言いながら誰かが歌い始めると、その歌を知っている人や好きな人が続



きを歌っているようだ。同じ曲が繰り返されることはなく、いつまでも歌は尽きない。みんなとても上手い。いや、単に上手いのではなく、その人の人生が滲み出ているような、その人の生まれ持った声でいきいきと歌っていて、それが素晴らしいのだ。

途中、食事のために道沿いのゲルに立ち寄った。僕が馬頭琴を持っているのに気づいた人が話しかけてきた。つたないモンゴル語で、自分は馬頭琴とホーミー、モンゴルの歌を勉強していてホーミーの故郷を見たくて旅をしている、というのをなんとか伝ええると、「馬頭琴を弾いてみてよ」と言う。楽器を出してきて一曲弾くとみんな嬉しそうに聞いてくれ、曲が終わると、こんな曲は知っているかと、いろいろなリクエストを仕はじめた。それに応えられるほど多くの曲を知らないの練習していた民謡を何曲か弾くと、どれもよく知ってる曲らしく、一緒に歌ってくれた。

しばらくすると周辺のゲルからも人が集まってきた、食事ができるまでの間ちょっとした宴会になっていた。気がつくや運転手は上機嫌で馬乳酒を飲んでいいる。いつ

出発するか気にする人は誰もいないし、そもそも時刻表などものとなないのだ。なんというおおらかな大陸時間。

食事を終えてみんながゲルの人にお金を払う時、僕からはお金の受けとらずに、箆筒の奥から青色の布を取り出してきた。それを馬頭琴の頭の部分に巻き付けて一言何かを言った。何がおこったのかどうしていいかわからずにまごまごしていたら、乗客の一人が、これはハタクという神聖な布で、馬頭琴を弾いてくれたお礼だ、そしてお前は食事代は払わなくていい、と教えてくれた。

それから何度か同じようなことがあり、二週間の西モンゴルへの旅が終わる頃には僕の馬頭琴には何本ものハタクが巻き付いていた。ウランバートルに帰った時、それを見た僕の先生は、馬頭琴の仙人が弾くみたいな楽器だな、と笑いながら言った。



あれから二十二年の年月が流れて、僕は今、日本中を旅しながら馬頭琴、ホーミーを演奏している。馬頭琴の仙人のような演奏にはまだまだ至ってはいないけど、あの時モンゴルの人が歌ってくれた歌を思い出しながら、馬頭琴とホーミーの音色に僕の今までの人生が滲み出るような、そんな演奏をしたいというも思っている。

おかばやし たつや

一九七二年 名古屋市生まれ。
一九九八年にモンゴルを旅し、ホーミーに出会う。以後、繰り返しモンゴルを訪れホーミー、馬頭琴、歌を学ぶ。二〇〇二年から約二年半、馬頭琴一本とバックパック一つでヨーロッパ、北米、南米を放浪。路上での演奏や各国のミュージシャンとの交流の中で、自己のスタイルを確立。二〇〇四年帰国後は全国でソロ活動を行っている。近年は「カルマン」、「風の音楽家」などのユニットでも活動をしている。二〇一一年高知県に家族で移住。水切り大会の主催団体 NPO 法人仁淀川お宝探偵団の中心メンバーでもある。

コロナ禍の今、演劇鑑賞会は

浦田 里

高知市民劇場は、会員制、サークル制、会費制の演劇鑑賞会です。一九五七年創立以来、数多くの作品を高知に迎え、演劇の面白さや感動を根づかせてきました。

演劇鑑賞会は北海道から九州まで百二十以上の団体があります。

高知のように長い歴史を持つ団体も多く、これまで、地震や台風などの自然災害による危機的状況を会員と共に知恵と力を出し合い乗り越えてきました。

しかし、今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、私たち演劇関係者だけでなく、文化芸術全般にかつてないほどの影響を与えています。これほど長期間劇場が閉まったのは、戦時中でもなかったこと、と言われるほどです。

◆ ◆ ◆
一月中旬に国内初の新型コロナウイルスウィルス感染者が発表され、二月上旬に豪華客船の乗客乗員の隔離、二十五日に乗船者の一人が徳島県

で四国最初の感染者として確認されました。二十六日には安倍首相（当時）がスポーツ・文化イベントの二週間の開催自粛、その翌日には全国の学校に一斉休校を要請しました。

このような状況の中、高知市民劇場は3月例会こまつ座公演『イヌの仇討』を予定通り十四・十五日に実施しました。



◆ ◆ ◆
高知でも感染者が増える中、3月例会をどうするか、何日も議論しました。例会の延期も選択肢にありましたが、こまつ座から、延期はできないとの回答があり、実施するかしないかの選択になりました。できる限り実施の方向を模

索する中で、会場が使用できると、観客が特定された会員であること、こまつ座からやりたいという要望が強かったことなどから、感染拡大防止の対策をとって実施することに決めました。

市民劇場には、例会ごとの主催者である運営サークルが三十前後あります。運営サークルにも実施理由と対策の説明をし、賛同を得られました。事務局に来た会員や、問い合わせのあった会員からも中止を求める声はなく、励ましの声が寄せられました。

会員制の利点を活かし、全会員向けの会場での注意事項を書いた「緊急連絡」を送り、例会当日には「なぜ例会を実施したのか」を知らせる文章を配布し、理解と協力を求めました。その結果、無事に例会を終えることができました。

会場では、マスクの着用や手指消毒、会場内の消毒、自分で半券をもぎるなどを行い、客席では密

にならないようにするなど、できる限りの対策を取りました。ただ、その後の二週間は感染者が出ないようにと祈る日々を過ごしました。



◆ ◆ ◆
5月例会は、政府の緊急事態宣言中に劇団に稽古をしてもらう必要があり、また緊急事態宣言解除後の二週間以内に例会を行うことは困難と判断し、八月に延期しました。7月例会、9月例会は予定通り実施することができました。

◆ ◆ ◆
実施にあたり、劇団はPCR検査を受け、来高する準備をしてくれました。会場側も換気や非接触の体温計の準備、客席や楽屋の消毒など、安心安全な観劇空間づくりに協力してくれました。



◆ ◆ ◆ 私たちはコロナ禍の中で3月例会に加え、7月、8月、9月の3か月連続例会を実施しました。毎例会、胃が痛くなる日々が続きました。

コロナ禍により、政府が文化芸術イベントの自粛を要請したことで、多くの作品が中止に追い込まれました。現在でも見通しが立たない文化芸術イベントは多くあります。ドイツ政府は「アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ」という声明を出しましたが、日本政府はまだまだ支援には消極的です。

演劇鑑賞会は、鑑賞する側と創造する側が共に支え合う日本独自の文化です。三月の例会で会員からの「芝居を観られて本当に良かった」「観に来るか迷ったけど、来てよかった」という声に励まされました。また、家庭や職場の事情で、観たくても観られなかった会員も多くいました。そんな会員からも「例会ができて良かったね」という声ももらいました。なぜコロナ禍においても演劇を観続けるのか？そんな困難な状況にあっても、人間らしく生きていくうえで、文化が必要だからです。

高知市民劇場で大切にしている言葉があります。【人間は誰でもよりよい人生を生きたいと願っている。が、励ましがなければ途中でくじけてしまう。演劇はそれを励ましてくれるのです。】

高知市民劇場は、ただ芝居を観るだけの会ではありません。私たちは劇団を守り、文化を守る一翼を担っています。

◆ ◆ ◆ 最後に、これからの高知市民劇場の例会を紹介します。

●11月例会／テアトル・エコー公演『八月の人魚たち』



かつて大学の水泳部で同じチームだった五人は年に一度顔を合わせることを楽しみにしている。彼女たちは、互いの近況を語り合い…。五人の友情を通して、生きることを見つめ直すコメディです。

●2021年1月例会／劇団俳優座公演『北へんろ』

岩手県を中心に部からやや離れた

海辺の集落にある旅館「清和館」。女主人・須藤いわねとその夫・清介は家を出た息子・清和が戻ってくるのを待ち続けていた。

●3月例会／俳優座劇場プロデュース公演『罎』



新妻のエリザベートが旅先の山荘から失踪してしまう。憔悴する夫のダニエル。数日後、近隣の神父がエリザベートを連れ帰るのだが、それは会ったこともない女だった……。

●5月例会／劇団民藝公演『泰山木の木の下で』



民藝での初演以来、宇野重吉演出・北林谷栄主演により、ロングラン上演を重ねてきた作品。この

度、丹野郁弓演出により、新しいハナ婆さんを日色ともゑが継いでいきます。

●7月例会／青年劇場公演『キネマの神様』作：原田マハ

●9月例会／人形劇団プーク公演『オッペルと象』作：宮沢賢治

●11月例会／劇団東演公演『マクベス』作：W・シェイクスピア



高知市民劇場は、会員募集中です。コメディからサスペンス、大人のための人形劇やミュージカル、シェイクスピアまで、様々な作品を例会に迎えています。ぜひ、一緒に演劇を楽しみましょう！

問い合わせは、高知市民劇場事務局
高知市相生町5-10

☎088-802-7538

うらた さと

高知市民劇場 事務局長

里親制度を知っていますか

高知県中央児童相談所 公文 須雅

護施設が八か所ありますが、現在、親からの虐待等により保護を要する児童が増加し、乳児院や児童養護施設の不足が問題となっています。

「里親制度について」

現在、日本の社会的養護は転換期にあります。施設養護が主流となっている状況を家庭養護に変えていく、という流れです。これを実現していくために、里親の数を増やす取り組みがまず必要になっています。里親家庭で生活している子どもを里子と呼んだりします。よく混同されがちなのが養子です。どちらも実子でない子どもを家庭で養育することは同じですが、養子は法的に親子になるのに対し、里子はなりませんし、養育をお願いする必要がなくなれば、子どもは自分の家庭に戻ります。里親家庭での生活は「措置」（『行政行為』）により開始されます。したがって、公的制度によるものであり、里親

「はじめに」

十月は里親月間、十一月は児童虐待防止推進月間であることを皆さまはご存じでしょうか。

そして、児童相談所という児童虐待への対応が頭に浮かぶ方が多いのではないのでしょうか。児童相談所は一九四七年制定された児童福祉法により設置され、十八歳未満の子どもの相談に応じることとされています。都道府県、政令都市に設置義務があるほか、中核市も設置することができます。高知県内には県の出先機関として高知市と四万十市の二か所に設置されています。

「児童相談所と社会的養護」

児童福祉法は憲法第二十五条の生存権の理念を児童について具体化するために制定されました。制度の背景には第二次世界大戦後の戦災・引き揚げ孤児など戦争の犠牲により発生した児童養護問題がありました。児童相談所の歴史が戦後処理の大問題の一つとして始まったことはあまり知られていないかもしれません。

児童養護問題を取り巻く状況は制定当時とは大きく変化しています。今でも、児童相談所が対応する相談種別の一つに「養護相談」があります。児童相談所の統計上

は、児童虐待も「養護相談」に分類されます。それ以外に、死別などによる養育者不在、養育者の病弱、養育拒否、経済的事情、家族関係不調等があります。これらの事情により、家庭では適切な養育を受けることができない子どもを、公的責任で養育することを社会的養護といいます。こうした状況になると、乳児院や児童養護施設（施設養護）や里親宅で生活（家庭養護）することとなり、児童相談所が行政行為としてその手続きを行っています。

本県において社会的養護を要する児童は、約三百七十名程います。県内には乳児院が一家所、児童養

には公費により手当や養育費が支給されます。そして家庭養育であっても、公的責任のもと行われる養育ですから、里親には自身の養育感や価値観に偏らないよう研修等を通して研鑽を積むことが求められます。一方、児童相談所も里親をバックアップしていかなければなりません。

子育ては実子でも大変なことの連続です。里親として子どもを受け入れ、養育していくのは、実子とはまた異なる大変さもあります。令和二年度から、児童相談所では里親を専門に支援する職員を配置し、養育上の里親の困りごとや心配なことを今まで以上に把握し、支援を強化しています。

（里親の形態）

里親には主に三つの類型があります。

- ・養育里親：一般的な里親イメージに相当するもの
- ・親族里親：扶養義務のあるものが里親となるもの
- ・養子縁組里親：将来的に養子縁

組を希望する里親

委託形態は、委託期間が一年以上となる長期間のケース、一年未満の短期間のケース、児童相談所が保護した児童を一時的に委託するケース、施設入所児童が週末など限られた期間利用するケース（週末里親）があります。

本県では五十七組の養育里親が登録されています。申請に至った動機は子どもが好きといったこと、思想的動機の他、社会貢献したいという理由も多くなってきました。児童虐待などの報道に触れたことが契機となった方や、子育ては一段落したが児童福祉に関心があるから、というものが主なものです。

「おわりに」

制度の背景等をお伝えしてきましたが、実は日本文化に根付いた代替養育の形態があったことをお気づきの方も少ないと思います。「乳母」などはその代表的な

ものです。養育目的にかなった方に、子どもを託する方法は昔からあったのです。社会情勢に応じ、法制度の枠組みが整うにつれ、里親養育などの代替養育は今後も変わっていくのかもしれませんが。

今、本県では、広く里親になっていただける方を探しています。子どもや保護者のニーズに応えていくため、幅広い年齢層の里親が必要とされています。里親制度にご関心のある方は、お問い合わせだけでもかまいません。どうぞ中央児童相談所にご連絡ください。お待ちしております。

*社会的養護を要する児童、里親数は令和二年九月一日現在のもの。



くもん すが

高知県中央児童相談所 地域養育
支援部長

高知市若草町10-5

TEL 088-821-6700

FAX 088-821-9005

e-mail

06403@kenpref.kochi.lg.jp

「アンテナ」 歌って走って キャラバンバン出場話



下尾 仁

周波数を合わせれば、いろんな人と出会い繋がることできる。アンテナを高くたて沢山の人と繋がる。

二〇一六年惜しまれつつ終了したテレビ高知の番組『歌って走ってキャラバンバン』をご存知でしょうか？キャラバンバンは、タイトルどおり高知県内の二十程の会場を、ひと夏のあいだに駆け巡り素人が参加する歌番組で、地区大会での優勝者の中から決勝大会（オレンジホール）で優勝者を決めたり、歌が上手いだけでなく会場を最も沸かした人に与えられるキャラバン賞などがあつたり、素人がテレビに出られるお祭りのような楽しい番組であつた。

実は僕もこの番組に（文化高知No.208で書かせてもらった）川村慎二さんと一緒に九回出場した事がある。初めての出場は赤岡の天然色劇場であつた。この日は、凄

土砂降りでは本来ならステージから客席に向かつて歌うはずだが、天然色劇場は屋外でステージにしか屋根がないため、ステージ奥にお客さんを入れ、ステージ後ろに向かつて歌うという、なんともシュールな大会であつた。

もちろん、それほど歌唱力もない僕は、会場を沸かすキャラバン賞狙いで、少年隊の『仮面舞踏会』を熱唱し、審査発表を待った。結果は、なんと準優勝、嘘だろという思いと嬉しい気持ちとで、僕はすっかりキャラバンバンに出場するのには、はまってしまった。

二回目の出場は馬路村大会であつたが賞はなにもなし。

次こそはと挑んだ三回目には、奈半利大会。シブがき隊の『100%：SOかもね！』で出場。なんと念願のキャラバン賞を受賞。そして全地区大会の中で三組しか行けない決勝大会出場にも選ばれた。決

勝大会は生放送で行われ、前日のリハーサルなど初めての経験だらけですべてが貴重な体験になった。決勝大会では、地区大会と演出を変え、シブがき隊は三人組ということで人間と同じ大きさの人形を作り、名前をヤククンと名付け決勝大会に挑んだ。

結果は、なんとなんと、キャラバン大賞受賞。この年の会場を最も沸かした出場者になった。

僕は、応援してくれた友達と人形のヤククンと一緒に、ひろめ市場に行き打ち上げをした。すると次から次にお客さんが、「テレビ見たよ、おめでとう」と沢山のからビールをごちそうになった。流石生放送!!

この日は知り合いの神社に車を置いていたので、人形のヤククン



を車に乗せ、僕は友達の手で家に帰った。すると次の日警察から電話があり、「車に死体に乗ってますと通報がありました。確認したところ人形だったのですが一応報告しておきます。電話番号はダッシュボードに置いてある名刺にかきました」と言われた。ヤククンは死体と間違われる程リアルに出来ていたのだ。

話はそれてしまったが、それから毎年のようにキャラバンバンに出場し、九回出場中、準優勝一回受賞、キャラバン賞六回受賞、決勝大会三回出場中二回キャラバン大賞を受賞した。僕たちは、キャラバンバン名物コンビになり、テレビ高知スタッフとも仲良くなり、CM出演やテレビ番組出演など、沢山のご縁をいただいた。キャラバンバンという番組はなくなつてしまつたが、キャラバンバンファンのあいだでは僕たち二人は、伝説になつていくとかいえないとかないとかないとか……。

しもお ひとし

一九六九年生まれ。

岡豊高校一期生。二十五歳ぐらいに演劇に目覚め、日夜面白い事はないかとキョロキョロしている。

神保彰ワンマンオーケストラライブ 全国行脚2020

コロナ禍の下、高知市文化振興事業団が行った初めての文化事業。感染防止対策を十分に行い、来場者にも様々な協力をお願いしました。

公演から二週間が経過して、感染者が出なかったことに安堵しています。しかし、この先もこの状態が続くかと思うと、やりきれないと思います。

日本国内ではまだ感染が広がる前の今年一月、神保さんとお会いした時は、中心の神保さんを三百六十度囲んだ客席でライブをやりましょうと話をしていました。しかし、実際は一メートル以上の間隔を空けてフラットなフロアに客席を配置せざるをえませんでした。それでも、せめてステージサイドに神保さんを囲むように座席を配置できたのは良かったと思っ

ています。

「ワンマンオーケストラ」というタイトルのとおり、メロディーやアンサンブルも一人でたたき出し、ドラム以外のサウンドも同時に奏でるパフォーマンスは、見る者、聞く者を、あっと驚かせました。その唯一無二のスタイルから、どんな仕組みで演奏しているのか多くの人の頭に^{ハテナ}が浮かんだことでしょう。しかし、心地良いサウンドは、その^{ハテナ}を超えて、人々をノリノリにさせていました。コロナ禍でなければ、立ったり踊ったり、クラブのような雰囲気になっていたのでは、と思うと残念です。

公演の前に行ったワークシヨップ。ドラムクリニックと題し、神保さんが一般参加者とセッションしたのですが、参加者一人ひとり

のレベルが高く驚いていました。参加者から神保さんへの質問は止むことなく、非常に貴重な機会となりました。ワークシヨップの最中一人ひとりに丁寧にアドバイスをする神保さん、にこにこしながら演奏する神保さん、スタッフと



打ち合わせをする神保さん、終始笑顔でした。そのお人柄がファンを惹きつけるのだらうと感じました。神保さんにとっても久々のライブだったそうで、誰よりもこの状況を楽しんでいるようでした。

コロナの影響でしようか、七八席完売だったにも関わらず、十三人が来場されませんでした。およそ十六%という今までにない欠席率に、影響の大きさを感じました。不安は尽きないですが、少しでも皆様が安心して舞台鑑賞ができますよう、これからも感染防止対策に努めていきます。

少しですが、公演の写真や映像を高知市文化振興事業団のツイッターで紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

開催日時

二〇二〇年九月十二日(土)

会場 かるぽーと小ホール

入場者数 六十五名



高知を撮る

第36回写真コンテスト入賞作品

くじらが翔んだ日 (平成21年11月28日 新堀小学校校庭)

杉本 石

2009年、高知で開催されたエンジン01、文化戦略会議、高知と係りのあった山本寛斎さんが(旧)新堀小学校で、生徒や保護者を招いて、自身がデザインしたジャンボ鯨の飛行船を披露した。それはとても大きくて立派でボランティア活動だと知って大変感動した。

コロナ禍、イベントやエンターテインメントは休止。週末は芸術鑑賞を楽しんでいた私にとっては、味気ない日々を送っていた。久しぶりに足を運んだのは、ほぼ半年ぶりのピアノコンサートだった。

県民文化ホールに、世界最高峰と言われるピアノ・スタインウェイがドイツからやってきた。もともとあったスタインウェイと、新旧弾き比べをする。

コロナ禍、手指の消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンスをとるために、一席間隔。徹底した衛生管理で、なおかつ、おしゃべりを控えるように促された。

「隣がいなかったら、しゃべろうにもしゃべれないよね」と思いながら、指定の椅子に身を沈めた。しかも、一階後方は全て空席。観客は多いほど、見る方、聴く方もテンションはあがる。演奏者なら尚更だろう。冒頭、ステージ中央に進み出た演奏者が最初に観客席を見た瞬間、少し戸惑った表情が見受けられた。

都市部のコンサートホールに行く、幕間の休憩時間は、ホワイエでグラスワインなどを片手に、「やっ

「間」無し



風俗歳時記

ぱりベーターベンは天才だよ」とか、「くるみわりの一幕の入り、めっちゃおしゃべりだった」とか、あっちこっちで纏着が始まる。寺院の鐘のような予備で、残っているアルコーラをグツと飲み干し、観客たちは席に戻る。幕間も作品の一環だと、私はいつも思う。席で待つ間も、少しお隣の方とおしゃべりしながら期待を膨らませる。音楽や舞踊、芝居は、まさに演者だけでなく、観客もいろいろな間を楽しんでいる。ところが、コロナ禍のコンサートはそうではなかった。この静けさは何？ とまどうほど、コンサート前も、曲と曲の間も音がしないのだ。

高知でさえ、この異様な雰囲気。ましてや都会をやである。こんな状況で、これからの芸術・文化事業は、観客を非日常にいけない、別世界へ連れて行くことができるのだろうか。間無しに足を運んだコンサートは、今、「間」の楽しみが無い状態になっている。

(立花香)

令和2年度 市民学校作品展

市民学校で学んだ受講生と講師の先生方による手作りの作品展です。お互いに励まし合い、楽しみながら作り上げた、たくさん作品を展示します。ぜひご来場ください。

【出品予定作品】 油絵、絵手紙、銀粘土クラフトジュエリー、組紐、竹細工、陶芸、日本画、洋裁、和紙ちぎり絵

日時：2020年11月15日（火）～20日（日） 10時～18時（ただし、最終日は16時まで）
場所：高知市文化プラザかるぽーと七階 市民ギャラリー第一展示室
入場料：無料

主 催：高知市教育委員会、高知市文化振興事業団
お問い合わせ：高知市文化振興事業団 〇八八八八三二五〇七一



今号の表紙

「クラッカー」

小原 龍斗

11月は秋から冬へと季節が移り変わる月だと思ったので、そのシーズンに見頃を迎えるイチヨウやヒイラギの葉をモチーフに季節の変わり目を表現しました。

また、クラッカーはクリスマスをイメージしており、冬の訪れを示唆しています。紅葉を意識した色彩で全体的に落ち着いた印象のイラストに仕上げました。

（おはら りゅうと／
国際デザイン・ビューティカレッジ2年生）

KOCHI ART MESSE 2021.1.21-27

Kochi Art Messe - 高知アートメッセ - Vol.3

これからの高知の美術文化を担う若い世代の作家を応援することを目的に、公募作品の展示と販売を行う企画展です。

出品締切：2021年1月17日（日）17:00 必着
展覧会：2021年1月21日（木）～1月27日（水）
会場：高知市文化プラザかるぽーと
7階市民ギャラリー 第1展示室

出品に関する詳細は募集要項をご覧ください ▶



風 俗

「ヤフーニュース」

アメリカの主要な新聞やテレビのほとんどが民主党寄りで、日本のほとんどのマスメディアは、こうした民主党寄りの偏った報道をただ紹介しているというのが実情だ。実に情けないことなのだが、それがまかり通っている。世界的な大ニュースでさえ、民主党に不都合な事件はアメリカの巨大メディアはほとんど報道しない。

いま緊迫した世界情勢を把握するためには、少なくともアメリカ、ロシア、そして中国の動向を把握しなければならぬが、私たちが知るべきことには触れないし、日本のマスメディアは日本のことさえもとくに報じられなくなっている。

だから、ネット上でのさまざまなソーシャルメディアを通じてしか情報を

得られない。しかしそのネット上にはさまざまなフェイクニュースが蔓延っていて、まともに受けとっていいかどうかさえ判断がつかないことが多い。そんななか、バイデン大統領候補がオバマ政権の副大統領時代に、次男と共に行ったとされる某国などの不正な関与を示す次男のメールが、先日、ニューヨーク・ポストで報道されたことを「ヤフーニュース」と、よく見るある方のユーチューブで知った。これは一つの例に過ぎないが、「ヤフーニュース」は日本では唯一といえるほど、他の巨大メディアでは一切取り上げないようなことや、日本国内で起こっている政府にとって不都合なことも、報道している。

日本のマスメディアにいくら目を通していても真実は見えてこないが、少なくともこのネット上の「ヤフーニュース」だけは、いまのところ唯一無二の存在ではないかとさえ思う。（霖）

Program

- ◇ピアノソラ：タンゴの歴史
- ◇ビゼー＝ボルヌ：
カルメン幻想曲
- ◇米津玄師：パプリカ
- ◇ジブリメドレー
ほか

泉真由×松田弦

凱旋コンサート

2010年にデュオを結成した高知県出身のフルート奏者・泉真由と、同じく高知県出身のクラシックギター奏者・松田弦。高知を飛び出して国内外で活躍する2人が、2020年からの「ぽーと」大ホールに凱旋!! 院への訪問演奏活動を行っており、2018年に発売したCD「Toward the Sea 海へ」は、レコード芸術誌にて特選盤に選ばれた。陽気なタンゴから情熱的なスパニッシュ、現代曲から親しみやすい映画音楽まで多彩なレパートリーでお届けする。

<https://www.facebook.com/mayuzumi.genmatsuda>

令和2年度公共ホール 音楽活性化支援事業

2020年12月5日(土)
高知市文化プラザかるぽーと
【大ホール】 開場 13:30 開演 14:00

全席自由 【未就学児入場無料】

一般	前売り / 1,000円	当日 / 1,200円
高校生以下	前売り / 500円	当日 / 600円

◆お問い合わせ◆ 公益財団法人高知市文化振興事業団 TEL:088-883-5071 ◆ <http://www.kfca.jp/kikaku> ◆

【来場の皆様へお願い】

新型コロナウイルス感染拡大防止の措置として、本公演来場時は、マスクの着用、入口での手指の消毒、非接触式体温計による検温、個人情報の提供等にご協力いただきますようお願い申し上げます。